

12月18日修了生職域委員会の企画による修了生職域問題シンポジウム開催の報告

12月18日、東京・専修大学にて法科大学院総会開催後、修了生職域委員会の企画による修了生職域問題シンポジウムが開催され、約200名の法科大学院関係者が参加した。本シンポジウムは、修了生職域委員会（これまで職域問題等検討委員会として活動）の2008年からの修了生職域拡大のための活動を総括するもので、概要は以下の通りである。

司会・進行 職域問題検討委員会 鈴木修一委員

法科大学院協会 青山善充理事長挨拶

人事院 千葉恭裕審議官 「法科大学院出身者の公務での採用について」

日本銀行 林新一郎人事課長「日本銀行におけるリーガル系人材と法科大学院への期待」

三井物産株式会社 加藤格法務部長「法科大学院修了生に求める人物像・資質」「法科大学院に求める人材教育」「法科大学院教育への協力・支援」

ソフトバンク株式会社 須崎将人法務部長「企業法務の弁護士採用とその課題」

西田法律事務所 西田章弁護士「人材紹介業からみた法科大学院修了生の就職問題」

閉会挨拶 職域問題等検討委員会 浜川清主任

法科大学院修了生の活用を新しい形で進めている官庁と企業の代表、及び、法務人材市場に詳しい弁護士の方々を招き、それぞれの組織で修了生が果たしている役割、修了生に求められている資質や能力、弁護士業界の実情、法科大学院に対する期待と要望などについて忌憚のない意見を頂いた。本シンポジウムの講演内容は、4月10日民事法研究会発行の「ロースクール研究」に掲載される予定である。

